

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策	成果と今後
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように論理的に話したり書いたりすること。 ○「読むこと」において、描写や事例から筆者の考えや登場人物の心情などを細かく読み取り、全体像を具体的に想像したり、それに対する自分の考えをまとめたりすること。また、読み取ったことや自分が考えたことを、言葉で伝え合い、考えを広げたり深めたりしていくこと。 ○正しい敬語の使い方の理解や漢字の習得をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事実と感想、意見を区別することができるように、接続語や文末表現に注意しながら、事実、意見、感想などの関係を捉えるように指導したり、話の種類や特徴に応じて、構成を考えるように例示して学びの蓄積を視覚化したりする。よさを共有し、それに従って書いた文章やスピーチ等を互いに読み合ったり、聞き合ったりすることで、正しい表現について確かめ合ったり、よりよい表現にしたりと推敲していく力を付けていく。 ○登場人物の行動や会話、情景等に注目させ、想像力を豊かに登場人物の気持ちを考えることができるようにしていく。それらを場面ごとに比較したり、自分や他者と比較したりすることで自分の考えをもてるようにする。また、自分事として捉えられるように事例を読み取り、要旨をしっかりと捉えさせ、自分の考えを整理する時間を十分に確保し、交流する機会を増やす。 ○学校生活を通して、敬語を正しく活用できるよう指導する。ミニ漢字テストの実施や、どの教科においても既習の漢字は使用するよう、指導することで、確実な定着につなげる。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○事実と意見・感想を区別する学習を重ねたことで、接続語や文末表現に注意しながら、自分の考えを筋道立てて話したり書いたりすることができる児童が増えてきた。 ○登場人物の言動や情景描写に着目し、場面の変化を比較しながら心情を読み取ろうとする姿勢が育ち、友達と交流する活動を通して、考えを広げたり深めたりできたことを実感している姿が見られるようになった。 ○敬語の使用や漢字学習を継続したことで、基本的な語彙・表現の定着が見られ、日常の学習でも意識して使おうとする姿が増えてきた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを適切な根拠とともに表現する指導を継続し、論理的に伝える力を一層伸ばしていく。 ○筆者の意図や登場人物の心情を多面的に読み取るために、比較や関連付けの活動を継続し、読みの深まりを実感できる授業づくりを行う。 ○正しい敬語の活用や漢字の定着に向け、繰り返し学習を組み込むことで、確かな言語能力の育成を図る。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では、児童の問題意識が醸成されるような資料を提示すること。また、気付いたことや調べたいことを引き出し、児童の発言やノート記述から学習問題を作っていくための工夫をすること。 ○調べる活動において、調べた内容を工夫してまとめること。 ○調べたことをもとに、自分の考えをもち、その考えを分かりやすくまとめたり、友達に伝えたりすること。 ○学習内容と自身の生活をつなげられるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に繋がるような資料を提示する。また、児童の発言をキーワード化して整理し、児童の意見から、共通項を見つけさせ、学習問題を設定できるようにする。 ○思考ツールを活用したまとめ方を教えたり、工夫してまとめられている児童のまとめ方を紹介したりして、自分に合ったまとめ方を選択できるようにする。 ○単元の後半では、自分の考えをまとめる時間や伝え合う時間をしっかりと確保する。また、伝え方やまとめ方の例を提示する。 ○学習したことと自身の生活とのつながりを考えられる資料の提示や学習活動、問いかけをしたりする。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入で、学習問題に繋がるような資料を提示したことで、児童に問題意識が醸成され、学習問題を設定できるようになった。 ○調べる段階やまとめる段階で多様な思考ツールを活用できた。また、調べたものやまとめたものを見合う場を設けたことで、調べ方やまとめ方が上達した。 ○調べたことをもとに、まとめや振り返りを書く時間を設定したことが、概念的知識を獲得することにつながった。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習したことと自身の生活とのつながりを考えられるよう、資料や発問を吟味していく。

算数科	<p>○基礎的・基本的な知識、作図の力を身に付けること。</p> <p>○問題場面を把握し、図や式に表したり、求められていることに正しく答えたりすること。また、自分の考えを説明すること。</p> <p>○計算において、小数点を正しく打ったり、問題にあった答えを求めたりすること。</p>	<p>○実物を使ったり、実際に測定したりする活動を通して、数量の実感を得ながら知識や技能を身に付けられるようにする。</p> <p>○問題文を図で表す活動を取り入れる。また、自分の考えを説明する時間を確保し、説明の仕方や話型を指導したりする。</p> <p>○小数点の意味や計算過程の意味などを繰り返し指導する。計算練習に取り組むなど、繰り返し学習する機会を増やす。</p>	<p><成果></p> <p>○体験活動を通して、数量の実感を得ながら知識や技能が身に付いた。</p> <p>○何を問われているのかに注目して考え、学習した公式や用語を使って説明するようになった。</p> <p><今後></p> <p>○小数の加減と、乗除での小数点の扱いの違いを理解して、計算できるよう引き続き指導していく。</p> <p>○学習したことを忘れないように、短時間でも継続して練習に取り組んでいく。</p>
理科	<p>○調べたいことに対して、実験の計画を立てたり、実験の途中経過から実験内容が正しいかどうか調整したり、検証したりすること。</p> <p>○結果と考察の区別をして表現すること。</p> <p>○実験用具の正しい使い方について理解すること。</p>	<p>○実験の計画を立てる際に、既習の内容を振り返らせたり、実験の途中で振り返る時間を意図的に設定したりする。</p> <p>○結果概念と考察概念の違いを教え、区別できるようにしていく。</p> <p>○実験前に実験用具の使い方の動画を視聴したり、掲示物を提示したりする。</p>	<p><成果></p> <p>○実験の計画を立てる際には、既習事項を振り返る時間を取り、実験内容が正しいか確認して取り組むことができた。</p> <p>○実験前に動画や掲示物を提示し、正しい実験用具の使い方について確認し、安全に実験することができた。</p> <p><今後></p> <p>○結果と考察の区別がまだ曖昧な状態のため、今後も継続して結果と考察について説明し、活動に取り組むようにする。</p>
音楽科	<p>○音楽的な表現へのあこがれや意欲をもっている児童が多数みられ、積極的に活動に取り組んでいる。一方で、教材によっては表現するために必要な技術が十分でないという思いからか、表現に対してやや消極的になってしまう児童が見られること。</p>	<p>○児童によって音楽的な知識や技能に個人差があるので、段階別な課題を準備し、各自が目標をもてるようにする。また、互いの演奏をよく聴き、相手の演奏のよさを言葉にして伝え合うことを習慣化させることで、皆で一つの曲をつくり上げる素晴らしさや達成感を味わえるようにする。</p>	<p><成果></p> <p>○曲想や歌詞があらわす情景をイメージして、強弱に気を付け表現豊かに歌えるようになってきた。</p> <p>○鑑賞の授業では、本時に学ぶ音楽の要素を絞ったことで、活発な意見交換が行われ、深い学びにつながった。</p> <p><今後></p> <p>○音楽会での経験を活かし、次年度の百周年行事等でも、児童が自ら進んで表現活動をしたくなるような年間の授業計画を立てる。</p>
図画工作科	<p>○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む児童が多い一方で、自分のイメージを、造形的な特徴をもとに表すことが難しい児童もみられること。</p>	<p>○様々な表現方法を体験させ、表現の幅を広げ、どの児童もつくり出す喜びを味わうことができるよう指導する。導入では、ICTで画像や動画、または教師が実際につくっている様子を見せ、表現方法のイメージをもちやすいよう指導する。</p>	<p><成果></p> <p>○主体性をもち、これまでの経験をもとに表したいことに合わせて表現方法を工夫することができた。協働的な活動を年3回行うことができ、友達と協力してつくることを楽しむことができていた。</p> <p><今後></p> <p>○題材によっては興味関心が低い児童もいる。児童の実態や他教科との横断的な学習も意識して授業計画を立てる。</p>

家庭科	<p>○作業時間のバラつきを吸収できる活動を工夫すること。</p> <p>○一人一人が基礎的・基本的な知識及び技能を定着させること。</p>	<p>○十分に技能が身に付いている児童には発展的な課題を用意し、苦手意識が強い児童に対しては、少しずつ区切りながら学習内容や活動内容を説明する。また、休み時間を活用して個別に指導を行う。</p> <p>○学習内容に応じてグループ指導・個別指導を取り入れることで、児童同士で学び合いながら基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせる。また、分かりやすい資料を提示することで、児童の関心、意欲を惹き出す。</p>	<p><成果></p> <p>○個に応じた課題を設定することやICT 機器を積極的に活用することで、楽しみながら学ばせることができた。</p> <p>○授業内に製作が終わらなかった際は、休み時間を活用し指導を行うことで、全児童が課題を提出することができた。</p> <p><今後></p> <p>○授業内で習得した技術を次の同じ題材までに忘れてしまう児童が多いため、単元の初めには必ず復習から入るようにする。</p> <p>○引き続き安全管理を徹底して、ミシンや調理の実習を行う。</p>
体育科	<p>○体を動かすことを好む児童が多い一方で、体育は好きでも、体の使い方や基本的な動きが分からず、苦手意識をもったり、体を動かすことに対して消極的になったりする児童がいること。</p> <p>○経験の違いにも対応するための内容、方法と形態を工夫すること。</p> <p>○課題に応じた練習の場を増やすこと。</p> <p>○友達と協働的に学ぶ意識があり、話し合いや教え合いが増えている。より活発になるよう、話し合いの視点やコツの共有の仕方を伝えること。</p>	<p>○ICTを積極的に取り入れ、運動のポイントとなる資料(動画や写真等)を活用したり、自分の動きを確認したりできるようにすることで運動のポイントを理解できるようにする。</p> <p>○学習計画の前段で練習方法を提示し、課題にあった練習方法を理解できるようにする。また、よりよい練習方法について振り返りの場で確認していく。</p> <p>○行う運動の特性や児童の実態を把握し、練習の場を設定する。</p> <p>○課題確認の時間や振り返りの時間に話し合う視点を明確にもたせられるように声をかけたり、視覚的に分かる掲示を行ったりする。また、互いにコツを共有できる時間を設ける。</p>	<p><成果></p> <p>○自分の動きを確認したり運動資料を活用したりしたことで、積極的に運動に取り組む児童が増えた。</p> <p>○課題に応じた練習の場を増やしたことで、試技回数を増やすことができた。また児童が安心して行える環境を作ることができた。</p> <p><今後></p> <p>○1か所の練習場に集中してしまい活用しきれない場があった。臨機応変に変えたり新しい場を設定したりする。</p> <p>○個人の振り返りの時間をしっかりとることができたが、互いにコツを共有する時間やチームで振り返る時間を多く取れなかった。短時間でもペアやチームで振り返りを共有する時間を捻出する。</p>
外国語科	<p>○「聞くこと」において、既習の英単語や英語表現から場面や状況などを想像しながら、文章の意味をおおむね理解すること。</p> <p>○「話すこと」において、既習の英単語や英語表現を用いながら簡単な英語表現で自分の気持ちや考えなどを相手に伝えること。</p> <p>○「書くこと」において、アルファベットの大きい文字と小さい文字の音と形を正しく認識し、四線を意識しながら正確に書くこと。</p>	<p>○教師は扱う英語表現を精査し、既習の英単語や英語表現は都度確認する。また、児童に英語を聞かせるときには動画や写真などを見せたり、デモンストレーションを見せたりすることで児童には場面や状況などを想像しやすくし、文章の意味をおおむね理解できるようにする。</p> <p>○歌やチャンツをたくさん扱い、児童に基本的な英語表現を楽しく学習させることで、児童が十分に慣れ親しんだ英語表現を場面や状況に応じて使ってみたいと思えるような課題や活動を意図的に授業の中に取り入れる。</p> <p>○ワークシートなどを活用して、児童が楽しくアルファベットの大きい文字と小さい文字の学習ができるようにする。また教師が板書するときには四線を書き、児童が常に四線を意識できるようにする。</p>	<p><成果></p> <p>○単元の学習目標に対して、課題をスモールステップで取り組んだり、デモンストレーションを示したりすることで、「聞くこと」において場面や状況を想像しながら文章の意味を理解することができた。</p> <p>○歌やチャンツを毎時間繰り返し取り組むことで、英語表現の場面や状況を理解し、意欲的に学習に取り組むことができた。</p> <p><今後></p> <p>○「書くこと」において、大文字と小文字の区別や文末はピリオドを書くことの定着を図っていく。</p> <p>○発表において、相手意識をもって話せるように、アイコンタクトやジェスチャーなどができるよう発表方法を指導していく。</p>

道徳	<p>○児童一人一人が価値について自分ごととして考えていけるよう授業展開を工夫すること。</p> <p>○道徳的価値について理解し、実生活の行動に移そうとする意欲をもたせること。</p>	<p>○児童の実態に応じて教科書以外の教材も活用する。また、少人数での話し合い活動を取り入れたり、振り返りの発問を工夫したりすることで、一人ひとりが価値について考えていけるよう授業展開を工夫する。</p> <p>○道徳的価値についての自分の経験を振り返り、意見交流を通して様々な考えにふれ、価値について多面的・多角的な考えを深められるようにする。</p>	<p><成果></p> <p>○少人数での話し合い活動を取り入れたことで、児童の活動を保障することができた。</p> <p>○登場人物の気持ちやテーマに対する考えなど、多様な発問を行ったことで、児童の多様な考えを引き出した。</p> <p><今後></p> <p>○教材や内容項目によって、児童の発言が偏ってしまうことがある。どの教材や内容項目においても、児童の実態に照らし合わせた展開を考え、指導していく。</p>
総合的な学習	<p>○「課題設定」において、探究課題を自分事として捉え目的意識をもって活動する児童が多くみられること。</p> <p>○「情報収集」において、本やインターネット、インタビューなどを活用して、必要な情報を収集することができること。</p> <p>○「整理・分析」において、目的に沿って話し合い、情報を整理・分析することができること。</p> <p>○「まとめ・表現」において、これまでの活動をまとめる方法や発表する方法が、固定化していること。</p> <p>○児童が見通しをもって活動すること。</p>	<p>○児童が繰り返し学ぶ良さに気づき、集団で課題を解決する経験を行うために、教師は、探究学習となるよう単元指導計画を綿密に作成する。</p> <p>○情報収集の方法や場面を適宜提示していく。</p> <p>○思考ツールや論点整理をするなどして、教師のファシリテート力を磨き、目的意識をもった話し合いができるよう指導する。</p> <p>○題材の教材研究をし、ゲストティーチャーと連携を図ったり、教師から方法を提示したりして、方法のバリエーションを増やしていく。</p> <p>○学習計画表を作成し掲示しておく。</p>	<p><成果></p> <p>○体験活動や集団で課題を解決する経験を積ませたことで、児童が繰り返し学ぶ良さに気づき、意欲をもって学習に取り組むことができた。</p> <p>○情報収集の方法を教師から提示したことで、活用しながら活動を行うことができた。</p> <p>○教師が体験活動を設定したりゲストティーチャーと連携を図ったりしたことで、活動方法のバリエーションが増えた。</p> <p><今後></p> <p>○学習の軌跡を残す学習計画表を作成し掲示していく。</p> <p>○教師のファシリテート力をさらに伸ばし、目的意識をもった話し合いができるよう指導していく。</p>